

ISHIKAWA DESIGN AWARD

平成30年度 石川デザイン賞

2018

平成30年度

石川デザイン賞 表彰実施要領

■ 目的

石川県内のデザイン振興に大きく貢献した個人、団体、企業を評価、表彰することにより、県民へデザインの重要性を広くアピールするとともに、企業、団体へのデザイン導入の促進を図ることを目的とする。

■ 表彰対象

これまで石川県のデザインの向上、普及に著しく貢献している個人及び企業、団体を対象とする。

■ 表彰対象者の選考

- ①デザイン関係団体等の代表で構成する「石川デザイン賞選考委員会」において選考し、決定する。
- ②選考にあたっては、
 - ・デザイン界において顕著な活動を実践したもの
 - ・社会、教育に対してデザインのより一層の振興を図ったもの
 - ・デザインに対して深い理解を示し、商品開発や販売促進、さらには地域・社会・環境等の課題解決にデザインを効果的に活用したものの観点から審査する。

■ 表彰

石川デザイン賞 3件以内 ※賞状と副賞を授与する。
表彰は、石川県知事と公益財団法人石川県デザインセンター理事長の連名による。

■ 石川デザイン賞選考委員名簿

| | | |
|------|-------|---------------------|
| 委員長 | 大場吉美 | (公財)石川県デザインセンター副理事長 |
| 副委員長 | 村中 稔 | 金沢美術工芸大学教授 |
| 委員 | 石村聖一郎 | (一社)石川県建築士事務所協会理事 |
| 〃 | 井上 淳 | 金沢市経済局営業戦略部長 |
| 〃 | 亀田重太郎 | 石川県インテリアデザイン協会理事長 |
| 〃 | 川本敦久 | 金沢卯辰山工芸工房館長 |
| 〃 | 新谷隆二 | 石川県工業試験場繊維生活部長 |
| 〃 | 中富大輔 | 石川県商工労働部産業政策課長 |
| 〃 | 林 健治 | 金沢商工会議所常務理事 |
| 〃 | 松本いづみ | 石川県クラフトデザイン協会理事長 |
| 〃 | 水野一郎 | 建築家・金沢工業大学教育支援機構顧問 |
| 〃 | 山本洋志 | 石川県プロダクトデザイン協会会長 |
| 〃 | 吉田 繁 | (一社)石川県繊維協会専務理事 |

公益財団法人 石川県デザインセンター

石川県金沢市鞍月2丁目20番地 (〒920-8203)
石川県地場産業振興センター新館4階
TEL 076-267-0365 FAX 076-267-5242
ホームページ <http://www.design-ishikawa.jp>



デザインのカ。
人を動かし、
時代を創る。

2018

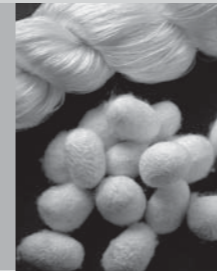
ISHIKAWA DESIGN AWARD

◎受賞者・企業の紹介



稲垣 揚平

エイジデザイン株式会社 代表取締役



株式会社 西山産業

代表取締役社長 小倉 継和



secca inc.

代表取締役CEO 上町 達也
取締役CCO 柳井 友一

受賞理由

九谷焼とのコラボにより自社ブランド^{ひらくる}hiracleを立ち上げるなど、産業機械から日用品まで幅広い商品の開発と販路開拓にも取り組んでいる。また、日本インダストリアルデザイナー協会などの活動を通じて、地域におけるデザイン振興や発展に貢献している。

工業製品をはじめとするプロダクトデザインからパンフレットやロゴなどのグラフィックデザインまで、さまざまなデザイン制作に取り組む稲垣氏。「ものがあふれている現代は、単に商品が役立つだけでなく、消費者の共感を得られるストーリー性がなければ、購入してもらうのは難しい時代。その付加価値を生み出せるのがデザインの力です」と、柔らかな表情の中に信念がにじみます。

大阪で大手樹脂メーカーに勤務し、バブル崩壊後、中小企業が苦境にあえぐ中、その助けになりたいと金沢に帰郷して独立。稲垣氏は、デザインの役割を課題解決と考え、「地域企業のブランド力アップ」を目指します。ところが、複数の企業と商品開発に携わりましたが、販路がないばかりに売り上げに直結せず、短期間で事業が打ち切られるケースが多かったと言います。

そこで、販路のネットワーク構築を目指して取り組んだのが、自社の九谷焼オリジナル商品「hiracle」です。「さくら小皿」の好評を受けて、「豆皿」「箸置き」「錫酒器」などラインアップを増やして販路を獲得し、日本だけでなく、海外でも好評を博しました。デザイン会社が可能だったように、県内のものづくり企業にも「デザインの力を活用して成長してほしい」と期待します。

日本インダストリアルデザイナー協会北陸ブロックを統括する一員として、地域のデザイナーのロールモデルとして走り続ける稲垣氏。「ただ消費されるデザインでなく、クラシック音楽のような普遍性を持ち、いつの時代にあっても“新しい”と感じるデザイン」を追い求めており、誰も見たことがないワクワクする商品が北陸に誕生する日は遠くなさそうです。



左：「hiracle」のさくら小皿とさくら豆皿。九谷焼ながら、上絵付のない粋な美しさと繊細な造形で、発売から7年たった今も人気の商品

右：大手玩具メーカーの子会社と共同製作した「九谷焼ルービックキューブ®」。古九谷の色絵石畳双鳳文平鉢の模様をキューブのパターンとして応用した※ルービックキューブはメガハウスの登録商標

DATA

1972年石川県生まれ、金沢美術工芸大学工業デザイン科卒業、1999年グッドデザイン賞受賞、2005年AgeDesignを創業、2012年エイジデザイン株式会社を設立し、自社ブランド hiracle を立ち上げる。金沢美術工芸大学非常勤講師、(公社)JIDA 北陸ブロック副ブロック長も務める

受賞理由

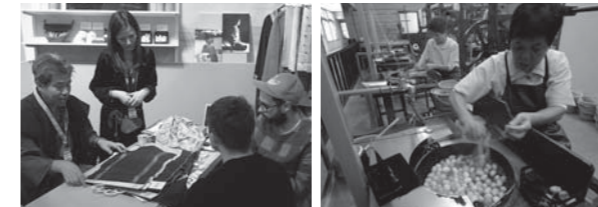
白峰地域の牛首紬を復興し、国の伝統的工芸品に指定されている。加えて近年、洋装生地を生産や外部デザイナーの活用による新分野商品の開発と販路開拓にも積極的に取り組んでいる。また、白山麓僻村塾への協力を通して地域文化の振興や発信に力を注いでいる。

白山市白峰地区で800年以上にわたって受け継がれる「牛首紬」。その製造・販売元となる西山産業では、和装用がほとんどだった牛首紬を洋装用生地として売り込むため、約10年前から海外での販路開拓を進めています。2011年、12年には、世界中のファッション業界が熱い視線を送る「パリ・コレクション」に牛首紬を用いた作品が登場するなど、ヨーロッパの高級ブランドを中心に引き合いが徐々に増えています。

さらに、ファッションの本場での関心の高まりは国内にも波及し、2019年2月には服飾品を輸入・販売するサンモトヤマ（東京）が銀座本店で牛首紬のコートやワンピースなどを展示。牛首紬は、1頭のカイコが作る繭ではなく、2頭のカイコからできる玉繭を使うのが特徴で、節のある独特の光沢や風合いの新作に注目が集まりました。

新市場開拓にあたって、同社では、38センチ幅の和装用に加え、140センチ幅の洋装用広幅生地の生産体制を確立。2011年から5年間、パリで開かれる世界最高峰のテキスタイル見本市「ブルミエール・ヴィジョン」にも招待出展し、海外の一流ブランドに向けて売り込みました。それでも、海外戦略はまだ道半ばです。メーカー側と会社が望む価格との開きが大きく、「牛首紬の価値をこれからも地道に伝えていきたい」と、同事業を牽引する西山博之さんは話し、ヨーロッパの展示会に足しげく通っています。

並行して、同社グループでは、地元の若手クラフト作家の作品を扱うオンラインショップの運営や、石川の歴史・文化・自然について学ぶ「白山麓僻村塾」にも協力しており、牛首紬をはじめとした幅広い地域の“宝”の掘り起こしに努めています。



左：パリで開かれた「ブルミエール・ヴィジョン」には、ユニークな生地を製造する世界13社のうちの1社として招待を受けて出展した

右：牛首紬は県指定無形文化財に指定される。同社グループでは、白山市内にギャラリー「加賀乃織座」を構え、ストールやバッグなどの自社商品も販売

DATA

■代表者 小倉 継和
■所在地 白山市白峰町25番地
■設立 1963年5月
■従業員 78名
■主な業務 土木建設施工・管理、牛首紬の製造販売など

受賞理由

最先端のデジタル技術と工芸のアナログ技術を掛け合わせ、美しい形状と微細な質感の作品を製造、販売している。独自に開発する器は料理や使われる空間環境との関係性から生み出されており、プロの料理人からも高い評価を得て金沢屈指の料亭などでも使われている。

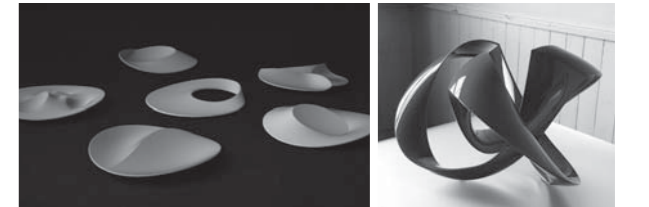
金沢美術工芸大学で工業デザインを学んだ上町、柳井の両氏は、大手の光学機器、音響メーカーでそれぞれ製品デザインに携わりましたが、短サイクルで価値が消費されていくことに疑問を抱いて退社。新たな道を模索する中で、学生時代を過ごした金沢で再会し、「未来工芸」をテーマに器づくりを通して、新たな食体験を提案する会社を起業しました。

デザインや型おこしの工程では3D CADや3Dプリンター、3D切削機を駆使し、細部の仕上げは手作業で行います。自らのプロダクトを「次世代型の工業的手工芸」と形容するように、最先端のデジタル技術と工芸のアナログ技術を掛け合わせ、漆や箔などの職人とも連携したモノづくりが一番の特徴です。

seccaの器には、手びねりやロクロでは成形の難しい数学的な曲線、表面の微細な質感など、シャープな感性と豊かな造形が際立ちます。それらは、デジタル技術のメリットを最大限に活用する一方、料理人らとキャッチボールしてブラッシュアップを重ねながら完成させることと無縁ではありません。

既に「銭屋」や「浅田屋」といった金沢屈指の料亭や、東京など県外の星付きレストランでもオリジナルの器が使われています。また、テーブルウェアフェスティバルで大賞や最優秀賞、国際陶磁器展美濃デザイン部門で金賞など、毎年のように受賞を重ねています。

現在、器のほかオブジェなどのアートピースやオリジナルの楽器も手がける secca。将来的には、レストランを併設した工房を開設し、器、料理、空間のトータルプロデュースで食体験ごと提案することを計画しています。



左：起伏と陰影の表情が豊かな風景の器「Landscape ware #007-012」

右：ナイロン素材に漆などを施したアートピース「timelessness japan」

DATA

■代表者 代表取締役CEO 上町 達也
取締役CCO 柳井 友一
■所在地 金沢市昭和町12-6
■創業 2013年
■従業員 8名
■主な業務 自社製品の開発・製造・販売
工業製品の企画・デザイン・コンサルタント

◎ご挨拶

デザインは、時代を切り開く新しい価値創造のプロセスとして、商品開発や広告のもとより、企業戦略や都市景観、イベント、地域活性化など多様な分野で、その力を発揮しています。

ますます創造性が必要とされる今日において、より一層社会に対して、デザインの浸透を図っていくことが重要であると考えます。

石川デザイン賞は、こうしたデザインの役割を広く県民各層にご理解いただくために、デザインの普及・発展やデザイン業界の活性化に著しく貢献した個人及び企業、団体を顕彰するものです。

選考に際しては、デザインに対する理解の深さ、リーダーシップ、社会への貢献度、商品開発や販売促進においてデザインを効果的に活用したもの、そしてデザイン業界において顕著な活動をしたものを対象としています。

平成30年度は、次の3者が受賞しました。ご一読いただき、デザインの有効活用の一助になれば幸いです。

公益財団法人 石川県デザインセンター

理事長 中島秀雄